

Lesson7

文型 (SVOC 型) (2)/ セリヌンティウスは信じていた。
メロスは勇者だと

Selinuntius believed Melos to be a hero.

SVOC 型は主語(S)、述語動詞(V)、目的語(O)、補語(C)で構成される文型です。make や think 以外にも SVOC 型をとることができる動詞が多くあります。これらの動詞にも慣れておくことが大切です。

Selinuntius believed Melos to be a hero. 「セリヌンティウスは信じていた。メロスは勇者だと。」も SVOC 型になっています。

このレッスンを受講することで SVOC 型をとる動詞について理解できます。

■ Topics

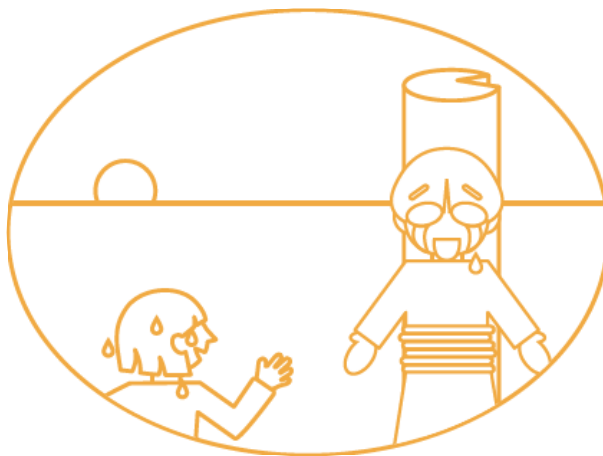
文型 (SVOC 型) (2)/ Selinuntius believed Melos to be a hero.

Topic1 SVOC 型の動詞と例文

- make, turn 「O を C にする/変える」
- name, call 「O を C と名付ける/呼ぶ」
- leave, keep 「O を C のままにしておく/保つ」
- think, consider, find, believe
「O を C と考える/みなす/気付く/信じる」

Wrap-up

DVD 版では練習問題の解説も行います。



Selinuntius believed Melos to be a hero.

■ Topic1

SVOC 型の動詞と例文

make や **think** は代表的な **SVOC 型**の動詞ですが、これら以外にも **SVOC 型**で使うことができる動詞があります。**SVOC 型**では **O=C** という関係が成り立っています。

●make, turn 「O を C にする／変える」:

The show made the singer famous.

「そのショーがその歌手を有名にしました。」

主語(S) 冠詞+名詞 the show 「そのショー」	述語動詞(V) 動詞 made O C 「O を C にした」	目的語(O) 冠詞+名詞 the singer 「その歌手」	補語(C) 形容詞 famous 「有名な」
---------------------------------	------------------------------------	-----------------------------------	---------------------------

Cathy turned the music louder.

「キャシーは音楽の音をもっと大きくした。」

主語(S) 名詞 Cathy 「キャシー」	述語動詞(V) 動詞 turned O C 「O を C に変えた」	目的語(O) 冠詞+名詞 the music 「その音楽」	補語(C) 形容詞 louder 「もっと (音が) 大きい」
--------------------------	---------------------------------------	----------------------------------	------------------------------------

●name, call 「O を C と名付ける／呼ぶ」:

Dr. Wang named her dog Jerry. 「ワン博士は彼女の犬をジェリーと名付けました。」

主語(S) 名詞 Dr. Wang 「ワン博士」	述語動詞(V) 動詞 named O C 「O を C と名付けた」	目的語(O) 代名詞+名詞 her dog 「彼女の犬」	補語(C) 名詞 Jerry 「ジェリー」
-----------------------------	---------------------------------------	---------------------------------	--------------------------

Everybody calls her Liz. 「みんな彼女の事をリズと呼びます。」

主語(S) 代名詞 everybody 「誰でも、みんな」	述語動詞(V) 動詞 calls O C 「O を C と呼ぶ」	目的語(O) 名詞 her 「彼女を」	補語(C) 名詞 Liz 「リズ」
----------------------------------	-------------------------------------	------------------------	----------------------

●leave, keep 「O を C のままにしておく／保つ」:

Someone left the door unlocked. 「誰かがそのドアのカギを空けたままにしていた。」

主語(S) 代名詞 someone 「ある人、誰か」	述語動詞(V) 動詞 left O C 「O を C のままにしていた」	目的語(O) 冠詞+名詞 the door 「そのドア」	補語(C) 形容詞 unlocked 「カギのかかっていない」
----------------------------------	--	---------------------------------	---------------------------------------

The janitor keeps our office clean. 「その清掃作業員は私達の事務所をきれいに保っています。」

主語(S) 冠詞+名詞 the janitor「その清掃作業員」	述語動詞(V) 動詞 keeps O C「OをCに保つ」	目的語(O) 代名詞+名詞 our office「私達の事務所」	補語(C) 形容詞 clean「きれいに」
-------------------------------------	---------------------------------	-------------------------------------	--------------------------

注意 : **leave** は「そのままにしておく」、**keep** は「その状態を保つ」の意味になり微妙に異なります。
leave は「ある状態のまま放置しておく」、**keep** は「意図的にある状態を保つ」という意味になります。

Do not leave the lights on when you are not in the office.

「事務所にいない時は、電気を点けっぱなしにしないように。」

のように点けたまま忘れているとう状況では **leave** が良いです。また、

Keep the room clean. 「部屋をきれいに保っておいてください。」

では意図的にきれいな状態を保つ必要があるので、ここでは **keep** が良いです。また、

Please leave the windows open. 「窓を開けたままにしておいてください。」

Please keep the windows open. 「窓を開けたままにしておいてください。(意図的)」

は似た意味ですが、**leave** は窓を開けたら閉めなくても良い、または空いている窓を閉めなくても良い、という意味に理解することができます。**keep** の文は意図的に窓を空けたままにしておきたいという感じのする文です。このように微妙な違いがあります。

● **think, consider, find, believe** 「OをCと考える／考える(みなす)／気付く／信じる」:

A fool thinks himself (to be) wise. 「愚か者は自分の事を賢いと考える。」

主語(S) 冠詞+名詞 a fool「1人の愚か者」	述語動詞(V) 動詞 thinks O (to be) C 「OをCと考える」	目的語(O) 代名詞 himself「彼自身」	補語(C) 形容詞 wise「賢い」
-------------------------------	---	----------------------------	-----------------------

Most attendees consider the decision (to be) acceptable.

「ほとんどの出席者はその決定を受け入れることができると考えました。」

主語(S)形容詞+名詞 most attendees 「ほとんどの出席者」	述語動詞(V) 動詞 consider O (to be) C 「OをCと考える／OをCとみなす」	目的語(O)冠詞+名詞 the decision 「その決定」	補語(C) 形容詞 acceptable 「受容できる、受諾できる」
---	---	---------------------------------------	--

The jury found the defendant (to be) guilty of all charges.

「陪審員団は全ての罪に対してその被告人は有罪であると宣告しました。」

主語(S) 冠詞+名詞	述語動詞(V) 動詞	目的語(O) 冠詞+名詞	補語(C) 形容詞	追加情報 前置詞+形容詞+名詞
the jury 「陪審員団」	found O (to be) O OをCと宣告した/OをCと気付いた	the defendant 「その被告人」	guilty 「有罪である」	of all charges 「全ての罪について」

The manager believed the candidate (to be) capable of completing the training.

「その部長はその候補者が研修を修了する能力があると信じていた。」

主語(S) 冠詞+名詞	述語動詞(V) 動詞	目的語(O) 冠詞+名詞	補語(O) 形容詞	追加情報 前置詞+動名詞+冠詞+名詞
the manager 「その部長」	believed O (to be) C OがCであると信じていた	the candidate 「その候補者」	capable 「能力がある」	of completing the training その研修を修了することの

注意 : capable of -ing で「～する能力がある」の意味になります。

スコアアップ!

(DVD 版のみ収録)



例題 : The film director finds the young man to be _____ .

- a. a wonderful actor
- b. a wonderful actress
- c. wonderful people

findsがこの文の述語動詞となっています。**find** には **SVOO** 型と **SVOC** 型の使い方がありますが、ここでは目的語(O) : **the young man** の後ろに **to be** があることから **SVOC** 型であることが分かります。**SVOC** 型の **O** と **C** には **O=C** という関係がなりたちます。そのため、目的語の **the young man** 「その若い男性」と同じになる必要があるので、**a. a wonderful actor** 「1人の素晴らしい俳優」が答えです。**the young man** は男性なので、**b. a wonderful actress** 「1人の素晴らしい女優」は選べません。**c. wonderful people** は「素晴らしい人達」と複数の意味になるため、これも選ぶことはできません。

The film director finds the young man to be a wonderful actor.

「その映画監督はその若い男性が素晴らしい俳優であると思っています。」

locked / unlocked

単語の前に付けて単語に意味を足す部品のことを**接頭辞**と言います。例えば、**locked** は「カギのかかっている」という意味ですが、接頭辞の **un** をつけて **unlocked** にすると「カギのかかっていない」という意味になります。このように **un** をつけると反対の意味になります。否定の意味の接頭辞には他にも、**dis-** (**dis+honest = dishonest**「不正直な」)、**in-** (**in+complete = incomplete**「不完全な」)、**im-** (**im+possible = impossible**「不可能な」)、**il-** (**il+legal = illegal**「違法な」)、**ir-** (**ir+responsible = irresponsible**「無責任な」) などがあります。このように接頭辞の意味を知っていれば、知らない単語がでてきても推測できることもあります。いつもうまく行くわけではありませんが、問題を解く鍵を **unlock** してくれることもあるので、覚えておいてくださいね。

コーヒーブレイク (DVD 版のみ収録)

Wrap-up

- **SVOC** 型の動詞には **make, turn, name, call, leave, keep, think, consider, find, believe** などがある。
- **think, consider, find, believe** では補語の前に **to be** をつけることもある。
- **SVOC** 型の **C** には名詞または形容詞に相当する語(句)が入る。



Selinuntius believed Melos to be a hero.

「セリヌンティウスは信じていた。メロスは勇者だと」

主語	述語動詞	目的語 名詞	補語 冠詞+名詞
Selinuntius 「セリヌンティウス」	believed O (to be) C 「O を C と信じていた」	Melos 「メロス」	a hero 「1人のヒーロー」

Practice

先生の解説を聞き、下記の練習問題を解いてみましょう。(DVD版のみ収録)

1. The priest _____ the baby girl Kimberly.
 - a. went
 - b. wrote
 - c. remained
 - d. named
2. The music made the atmosphere in the room _____.
 - a. please
 - b. pleasant
 - c. pleasantly
 - d. pleasure
3. Do not _____ your computer unattended while you are logged in.
 - a. call
 - b. leave
 - c. stop
 - d. consider

Homework

このレッスンに関連した下記の練習問題に挑戦してみましょう。

1. A majority of the respondents considered the situation _____.
 - a. satisfy
 - b. response
 - c. fulfill
 - d. unsatisfactory
2. This air-conditioning system keeps the room _____ constant throughout the year.
 - a. comfortable
 - b. relax
 - c. temperature
 - d. partition
3. Only one of the economists present at the conference _____ Dr. Rodriguez's theory of economic recovery plausible.
 - a. thinks
 - b. keeps
 - c. discusses
 - d. gives

■ Explanation - Practice

1. The priest named the baby girl Kimberly.

「その神父はその女の子の赤ちゃんをキンバリーと名付けました。」

解説 : **d. named** が正解です。name を使った典型的な SVOC 型の文です。named を入れると「O を C と名付けた」(動詞の過去形) となり、「その女の子の赤ちゃん(O)をキンバリー(C)と名付けました」という意味になります。その他の選択肢は、いずれも意味として不自然なものになりますが、あわせて文法的な視点からも、考えてみましょう。

a. went 「行った」(動詞の過去形) は go to ~ と前置詞をつけて SV 型の使い方をします。そのため、ここでは入れることはできません。**b. wrote** 「書いた」(動詞の過去形) は後ろに目的語を付けることが可能ですが、**the baby girl Kimberly** 「キンバリーという名の女の子」全体が目的語だと考えたとしても意味的に無理があります。**c. remained** 「ある状態のままだった」(動詞の過去形) は、その意味からも想像できるように、「どのようであるか?」ということ形容するもの(補語)が必要となります。つまり、後ろに形容詞か前置詞句をとります。これは意味的に考えても無理があります。

2. The music made the atmosphere in the room pleasant.

「その音楽がその部屋の雰囲気を楽しくしました。」

解説 : **b. pleasant** 「楽しい」(形容詞) を入れると SVOC 型の文が成り立ちます。**the atmosphere** が目的語、**in the room** が追加情報となっています。問題文で書かれているここまでの部分で、「音楽がその部屋の雰囲気を〇〇な感じにした」のだろうということが想像できます。そこでその雰囲気をどうしたのかということ補う語である補語が必要であることを導きだします。選択肢を見ます。すると、いずれも楽しそうな雰囲気を出せそうな単語が並べられます。ただし、補語にできるのは形容詞または名詞に相当する語句です。そこから、選択肢の品詞が何かということポイントに解答を導きます。

a. please 「喜ばせる/どうか」(動詞/間投詞) と **c. pleasantly** 「楽しく」(副詞) では SVOC 型にできません。SVO 型として考えた場合、構文上は入れることは可能ですが「音楽はその部屋の雰囲気を楽しそうに作った。」のような意味になり不自然です。**d. pleasure** 「楽しみ」(名詞) については **the atmosphere = pleasure** という関係にならないため入れることはできません。つまり、**b. pleasant** 「楽しい」(形容詞) だけが適切であると導くことができるのです。

3. Do not leave your computer unattended while you are logged in.

「ログイン中はコンピューターを無人にしないようにしてください。」 → 「ログイン中はコンピューターから離れないようにしてください。」

解説 : **b. leave** 「O を C のままにしておく」(動詞) を入れると「コンピューター(O)を無人(C)のままにしないようにしてください」の意味になり、SVOC 型の文が成り立ちます。unattended は「無人の」という形容詞です。your computer(O) = unattended(C)ということが見えると、SVOC 型の文ではないかと想像できます。そこで、述語動詞として SVOC 型として使えそうなものは何かないかな? と考えます。そして、この問題では leave が SVOC 型の文型を取る典型的な動詞であることを知っていると、すぐに解答が導き出せます。また、意味的に考えても、もっとも自然な選択肢だと言えます。**a. call** 「O を C と呼ぶ」(動詞) と **d. consider** 「O を C と考える」(動詞) については意味が不自然になって

しまいます。また、**c. stop** 「止める」(動詞)は**SVO**型の使い方はありますが、**SVOC**型では使いません。

Explanation - Homework

1. A majority of the respondents considered the situation unsatisfactory.

「回答者の大多数はその状況は不満足なものであると考えていました。」

解説：**d. unsatisfactory** 「不満足な、満足のいかない」(形容詞)を入れると **the situation = unsatisfactory** という関係がとなり、**SVOC**型の文が成り立ちます。まず、どの部分が主語であるのかを見極めます。ここでは、**A majority of the respondents** 「回答者の大多数」というところまでが主語であることが分かると、その他の構成はシンプルな**SVOC**型の文であると見えてきます。問題文には **considered** があります。これはレッスン内で学習したとおり、**SVOC**型を取る典型的な動詞です。そこで、**the situation** とイコールで結べそうなもの(補語)を選択肢から探します。

a. satisfy 「満足させる」(動詞)は動詞の原形ですので **consider** の補語として入れることはできません。同様に **c. fulfill** 「満たす」(動詞)の原形も、補語として入れることはできません。**b. response** 「返答、反応」(名詞)は **situation** 「状況」とイコールで結べません。

2. This air-conditioning system keeps the room temperature constant throughout the year.

「そのエアコンシステムは一年を通じてその部屋の温度を一定に保ちます。」

解説：**c. temperature** 「温度」(名詞)を入れ **the room temperature** 「その部屋の温度」を目的語にします。**keep** を使った **SVOC**型の文「**O**を**C**に保つ」という意味になるように検討を行います。**keep the room** は動詞+名詞というつながりなので形容詞を入れられそうに見えますが、後ろにある **constant** は「一定の」という意味の形容詞なので、形容詞を2つ続けることはできません。

a. comfortable 「心地よい」(形容詞)を入れた場合、**keep the room comfortable** までは良いですが、後ろにうまくつながらないのが問題です。**keep** は **keep+目的語+原形動詞**という形をとらないため、動詞の原形の **b. relax** 「リラックスさせる」を入れることはできません。**d. partition** 「仕切り」(名詞)を入れた場合、**room partition** 「部屋の仕切り」という意味になりますが、エアコンが部屋の仕切りを一定に保つというのも不自然です。

3. Only one of the economists present at the conference thinks Dr. Rodriguez's theory of economic recovery plausible.

「その会議に出席した経済学者の中のたった1人だけがロドリゲス博士の経済再生の理論をもっともらしいと思いました。」

解説：**a. thinks** 「**O**を**C**と思う」(動詞)を入れると **thinks Dr. Rodriguez's theory (of economic recovery) plausible** 「ロドリゲス博士の(経済再生の)理論をもっともらしいと思う」という**SVOC**型の構成になります。この問題文では **Only one of the economists present at the conference** という部分で、長い主語を構成しています。例えば、この長い文を **he** などに置き換えて考えると、とてもシンプルな**SVOC**型の文が見えてきます。あとは、選択肢から文法的な視点と、意味的な視点で検討を行います。ただし、**plausible** (形容詞)が「もっともらしい」という意味であることを知っているかどうかポイントになります。この意味を知っていると、**Dr. Rodriguez's theory of economic**

recovery(O) = plausible(C)という関係を見極めることができます。

b. keeps は「O を C に保つ」という意味の **SVOC** 型の動詞です。文法的にはおかしくはありませんが、が意味が通りません。**c. discusses** 「議論する」は **SVO** 型の代表的な動詞です(レッスン 4 参照)。この文では補語の **plausible** (形容詞) があるため、不適切であると判断できます。**d. gives** 「人に物を与える」という意味の **SVOO** 型の代表的な動詞です(レッスン 5 参照)。**plausible** は形容詞なので目的語になることはできません。目的語は動詞の対象となっており、名詞や名詞に相当する語(句)が入ります。